

北海道医歌人会詠草



平和を願う

江別 三宅 浩次

ユニセフのパンフレットの子らの目の美しいこと哀しいことよ
雨霰砲弾交わす戦場に子供らがいる何たる理不尽
何のため誰のために戦うか殺しのためなら犯罪なのだ
国々の経済格差国内の貧富の格差恨みとなりぬ
平和ばけいいじゃないか平和ならこの国に生まれこの国で死ぬ

年賀状

札幌 古屋 統

年賀状交歓これで終ります文纏まらず寝付き遅れて
妻軽き患い年賀の千支を彫る負担軽減も一因にして
妻が彫る賀状の千支を我が作と思ひ給える友もあるらし
賀状の千支彫り刷り続け四十年素人ながら技も進みぬ
子ら三人賀状の千支を彫り競う稚拙ながらも個性あらわに

祝ノーベル賞

美唄 吉村 誠治

「へそ曲がり」己れの夢を貫けり大隈教授ノーベル賞受く
研究費少なき日本のノーベル賞世界第二位の受賞國となる
チャレンジし孤独な研究耐えたりき天は何時しか誉めて下さる
待ち待ちし美唄啄木会発足す四十三名集ひきたりぬ
啄木の口マンに触れし若き日を思ひてやまずと礼状届く

シクラメン

札幌 浜島 泉

鉢植えの赤シクラメン代替わり実生育ちつ 株分けをせん
枕辺に友を訪ねて昔語り 登山の折りの傘が話題に
淋しげに演歌口ずさみ行く人の 帽子の縁に白髪見えて
スズメども舞ひ戯ると見なせしに 風に枯れ葉が浮き踊るなり
パソコンの操作誤り 貯への詠草幾多失ひにけり

浅き夢見し

釧路 兎玉 昌彦

逝きし人忘れ得ずして遺されし日々を生死のあわいにぞ生く
花の香で満たした部屋に寝し夜は蝶の姿で恋し人訪う
燃え尽きる前の炎のかなしけれ痴呆棟での性的逸脱
老も死も忌むものとして排除せるテクノロジーにうづくまる影
帰る道分からずなりて知らぬ町さまよい歩いた、夢でよかつた

米寿

旭川 稲積 文子

米寿とは他人事ならず目の前に大きくぶら下がって新しき年
米寿と書かれし立派な銀杯が日本医師会より送られて来つ
若きより一文字飛ばして書き急ぐそんな自分が何時迄続く
裸木が青い空白い雲を背景に手足伸ばして窓外に立つ
肥料まく暇もないまま雪積り可愛そうだね島の土よ